

中村元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村元 慈しみの心 No.1288

行為の結果を動機としてはい
けない。また無行為に執着して
もいけない。

（『バガヴァッド・ギーター』）

△解説▽こうすれば成功する、あ
るいは失敗する、失敗したらどうし
ようなどと行為の結果を考えすぎる
（執着する）と、かえって善くない
結果を招くことがある。注意しなく
てはならない点だ。また、行為をし
ないことに執着するのも過ちである
という。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.19 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1287

難きをその易きに図り、大い
なるを其の細に為す。

（『老子』）

△解説▽困難なことは、それがま
だ容易であるうちに対処すべきであ
り、大きなことはそれがまだ小さい
うちにかたづけしてしまうのがよい。
ものごとは、最初は些細なことであ
ったとしても、しだいに発展して大
ごとになってしまう場合が少なくな
い。この点に気づき対策を講じる力
が求められる。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.18 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1290

誰でも、身体によって悪行を
し、言葉によって悪行をし、心
によって悪行をするならば、そ
の**人**びとの自己は護られていな
いのである。

（釈迦）

△解説▽私たちは自己を護らなく
てはならない。自己を護るとは、み
ずから善き行いをすることである。
たとえ、象軍、騎兵隊、戦車隊など
によって護られていたとしても、悪
い行為をするならば、その人にとつ
て自己は護られていないのである。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.21 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1289

怒りから迷妄が生じ、迷妄か
ら記憶の混乱が生じる。記憶の
混乱から知性の喪失が生じ、知
性の喪失から人は破滅する。

（『バガヴァッド・ギーター』）

△解説▽好ましいものが得られな
ければ、その人に怒りが生じ、愚か
さ（迷妄）が生じる。そして、これ
まで学び実習してきたことが乱さ
れ、知性は失われてしまう。結果的
にその人は悪い状況へと陥ること
になる。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.20 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村元 慈しみの心 No.1292

慈悲とは、ひとことと言っ
たらば、愛の純粹化されたもの
である。（中村元）

△解説▽ここでいう愛とは、自
分の都合が入った愛情である。ゆえに
状況によってこの愛は憎しみになる
可能性をもつ。対して、慈悲はそ
うした愛から、自己執着心、独占欲、
限定性がそがれ、誰にでも注がれる
ものである。あたかも母が子に対し
て抱くような愛情を広く注ぐ。それ
が慈しみの心の理想的なあり方であ
る。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.23 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1291

真似が一日続いたら一日の真
似、二日やったら二日の真似。
それが一生続いたら、もう本物
になる。（宮崎奕保）

△解説▽一つでも仏の教えに沿っ
たことをすれば、そのときは仏とし
て生きている。それならば誰にとつ
てもできる。仏を目指すというより、
仏として生きる。一時の仏としての
行為の繰り返しが大切になる。まさ
に、「一生真似ればそれは本物」で
ある。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.22 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1294

対象をしいだいに広くしてい
く。つまり、意識をめぐらせて、
範囲をひろげて、一切の世界を
思惟し、樂を与える姿が遍満し
ないことがないようにしてい
く。（『俱舍論』）

△解説▽慈悲が無量になるよう実
践することを説明している。慈しみ
の心は、徐々に自分からまわりへと
広げて、そして一切におよぶまで意
識を広げていくこと、つまり、無量
になることが理想である。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.25 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.1293

弱いものでも強いものでも
（あらゆる生きものに）慈しみ
を以て接せよ。心の乱れを感ず
るときには、「悪魔の仲間」で
あると思つて、これを除き去れ。
（釈迦）

△解説▽慈しみの心をもっている
には、こころの平静な状態が必要に
なる。しかし、乱れることも少なく
ないから、そのときは、それは悪魔
の仲間であると認識し、心の乱れを
制御しなくてはならない。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.24 中村元記念館協力

中村 元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村 元 慈しみの心 No.1296

学道の人は後日（ごじつ）を待つて行道（ぎょうどう）せんと思（おも）うことなけれ。ただ今日（こんにち）今時（いまとき）を過（す）ぎさずして、日々時々（ときとき）を勤（こ）むべきなり。

（『正法眼蔵随聞記』）

△解説▽私（わたし）たちはすべきことを後（ご）日に延（の）びしてしまいがちである。しかし、学（まな）ぶとすると人は、もう少し（もう少し）あとならな（な）らぬ。今（いま）のこの日（ひ）、今（いま）のこの時（とき）間（かん）をむなしく過（す）すことな（な）らぬ。毎日（まいにち）、毎時（まいじ）間（かん）を充（み）つめて過（す）すべきである。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.27 中村元記念館協力

中村 元 慈しみの心 No.1295

慈悲（じい）はすべての人々（ひとびと）におよぶ愛（あい）であり、自分（みづか）や、自分の家族（かぞ）や、自分の宗派（しゅうはい）や、或（ある）いは自分の国（くに）にのみ限（かぎ）られないものである。

（『ライマクリシユナ』）

△解説▽インドの宗教家（しんじょうか）ライマクリシユナ（1836〜86年）が、慈悲（じい）と自愛心（じあいしん）との区別（くわくべつ）について述（た）べていることは、自分（みづか）や、自分の家族（かぞ）、自分の宗派（しゅうはい）や、自分の国（くに）への愛（あい）とい（い）うのは実（じつ）は執着（しやくしやく）を含（こ）むとして、人（ひと）を高め（たか）め神（かみ）に向（む）かかって導（みち）く慈悲心（じいしん）を養（やしな）え、とい（い）う。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.26 中村元記念館協力

中村 元 慈しみの心 No.1298

わたしから見（み）ると、二人（ふたり）とも愚者（ぐしや）である。罪（つみ）を罪（つみ）として認め（とく）ない人と、規定（きぎん）のとおり罪（つみ）を告白（くわいはん）する人の謝罪（しゃざい）を受け付（う）けない人と、二人（ふたり）とも愚者（ぐしや）なのだ。

（『釈迦』）

△解説▽罪（つみ）を告白（くわいはん）して謝罪（しゃざい）できるのは、自分（みづか）の行（な）いが間違（まちが）っていたと認識（にんしき）できていること、そして、それを繰り返（くりか）さないと反省（はんしやう）し、告（つ）げる勇氣（いき）を持っていてること。自（みづか）らの犯（と）した罪過（ざいご）を告白（くわいはん）し許（ゆる）しを請（こ）うことを仏教（ぶつぎょう）では懺悔（ざんげ）とい（い）う。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.29 中村元記念館協力

中村 元 慈しみの心 No.1297

あなた（あなた）は私の姿（すがた）を見（み）たけれど、私（わたし）はあなた（あなた）を見（み）ては（は）いない。私（わたし）から何（なん）万里（ばんり）も離（はな）れてい（い）る所にあなた（あなた）は（は）い（い）る。

（『法句譬喻経』）

△解説▽ブツダに会（あ）うたため旅（たび）をし（し）ていた2人（ふたり）。炎（えん）天（てん）で喉（のど）が渴（かわ）き、近（ちか）くにある水（みづ）を飲（の）もうとしたが中（なか）に虫（むし）が（が）いる。水（みづ）を飲（の）めば虫（むし）は死（し）ぬ。1人（ひとり）は教（きょう）えを守（まも）り飲（の）まずに命（いのち）を落（お）とす。もう1人（ひとり）は水（みづ）を飲（の）んでブツダに会（あ）った。ブツダは言（い）う。戒（かい）めを実（じつ）践（けん）した人（ひと）こそ、私（わたし）の目（め）の前（まへ）に（に）い（い）るのだ、と。

服部育郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.28 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村元 慈しみの心 No.1299

不利益なことを防いでくれ、利益になることを勧めてくれ、また、災厄の時にも捨てることではない、それが実に朋友のしるしである。（『ダンマニーティ』）

△解説▽自分にとって不利益で不善なことを止めるように、利益になり善であることをすべきよう助言してくれる。また、どのような不幸や災難に見舞われたときにも、決して無視し捨て去ることがないのは、本当の友の特徴である。

服部青郎・中村元東方研究所専任研究員

2019.6.30 中村元記念館協力